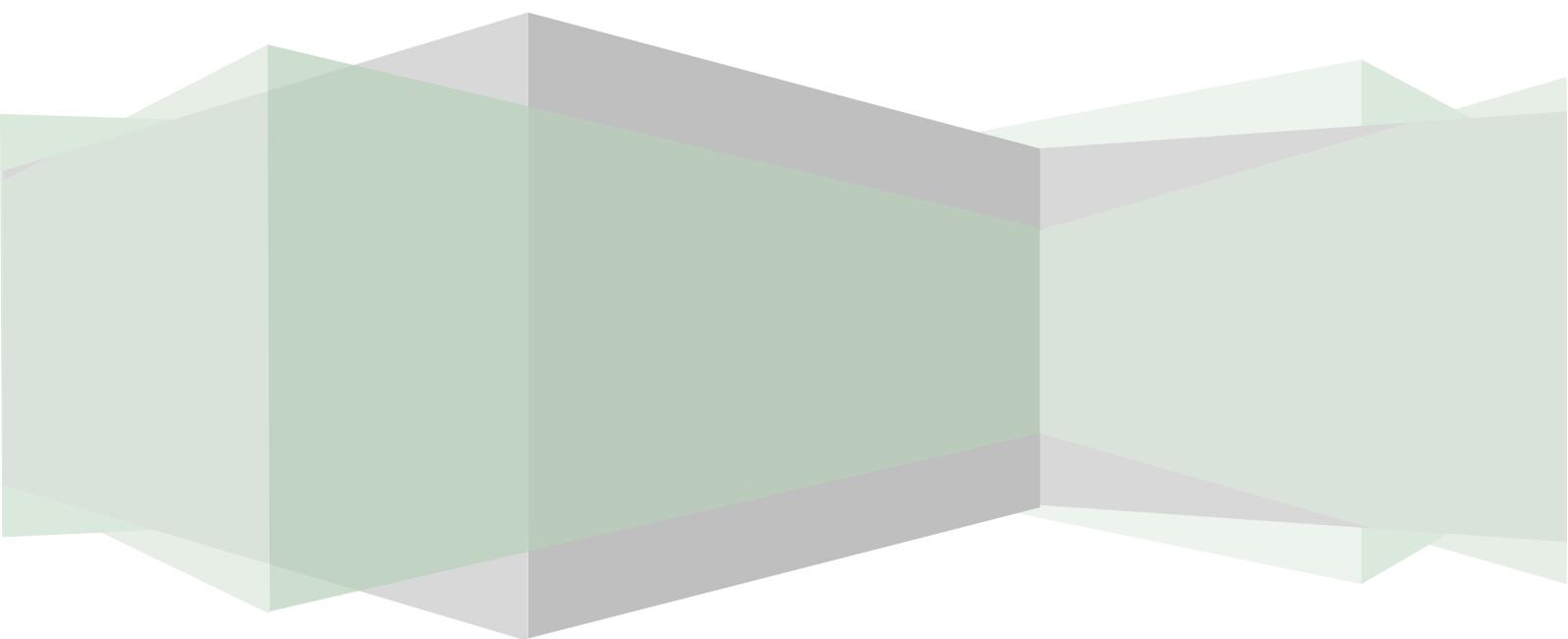


大分市 市民部 市民協働推進課

協働のまちづくり大賞 事例集

令和3年度



目 次

- 協働のまちづくり大賞について・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1

令和3年度 受賞事例

【協働のまちづくり大賞】

- 《舞鶴町青年会》
舞鶴町発！青年組織による活力あるまちづくり！・・・・・・・・・・P 2

【優秀賞】

- 《三佐校区自治会》
『にぎわいと活力あふれる 豊かなまちづくり』・・・・・・・・・・P 7
- 《豊府校区自治会連合会・豊府校区警友会》
自治会と警友会の連携による安全・安心のまちづくり
～地域内の連携・情報の共有を強化～・・・・・・・・・・P 1 1
- 《宗方台自治会》
まち・人・ころろ・地域をつなぐ回覧板
自治会だより（カラー版）・・・・・・・・・・P 1 5

【奨励賞】

- 《上野丘2丁目町内会》
コロナ禍の中、「町内会便り」「えがお通信」の広報活動で
まちづくり活性化・・・・・・・・・・P 1 8

協働のまちづくり大賞について

協働のまちづくり大賞は、自治会やその活動を支援する市民活動団体等が行っている住みよいまちづくりのための活動事例を募集・表彰する制度です。

令和3年度は、5団体から応募していただきました。

応募のあった全ての事例をまとめた本事例集を、自治会に配布するとともに、大分市のホームページに掲載します。まちづくりの参考にさせていただきだけでなく、今まで自治会がどのような活動をしているか知らなかった人にもご覧いただき、関心をもつきっかけになればと思っております。

～テーマ別一覧～

【安全安心のまちづくり】

◆豊府校区自治会連合会・豊府校区警友会.....(南大分地区 豊府校区)..... P 1 1

【コミュニティの活性化】

◆舞鶴町青年会.....(大分中央地区 長浜校区)..... P 2

◆三佐校区自治会.....(鶴崎地区 三佐校区)..... P 7

◆宗方台自治会.....(植田地区 宗方校区)..... P 1 5

◆上野丘2丁目町内会.....(大分中央地区 金池校区)..... P 1 8

この事例集は団体から提出された資料を基に作成しております。

協働のまちづくり大賞

テーマ：コミュニティの活性化

舞鶴町発！青年組織による 活力あるまちづくり！

(大分中央地区 長浜校区)

舞鶴町青年会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

住環境の多様化に加え、近年ではマンションも多く建設されるなど、舞鶴町にも多くの方が転入されてきたが、新たに町内の一員となった方々との接点に乏しく、住民の皆さんを地域に取り込んでいくのが困難であった。

こうした事情から、町内会組織の高齢化、地域と住民、住民相互の繋がりの希薄化、祭をはじめとする地域の伝統文化の担い手不足や継承問題といった課題に直面した。

そこで、持続可能な地域社会構築に向けて、青年層が集まる場所を創出することで、地域にまとまりと活気が生まれ、住んでいて楽しい町・生活が豊かに感じられる町になると考え、平成27年4月に青年会を設立した。

取り組み内容

当会会員及び町内青年層を対象とした各種行事の企画運営と、町内会行事の準備運営助成が主な活動である。

■青年会行事

1 流しそうめん・おでん・鍋・BBQ等の各種懇親会

年間を通じて懇親会を開催し、顔を合わせる機会を増やすことで親睦を深めるとともに、町内外を問わず会員以外の方々にも、入会の勧誘や世代間または地域を越えての交流を行っている。

2 新春 御獅子さま巡行

町内の皆さまの無病息災を祈念するとともに、神社へお参りに行けない高齢者の皆さまへお正月の雰囲気をお届けしようと始めた行事。

3 長濱神社夏季大祭

当地区最大の地域行事である長濱祭。老若男女が集い、世代を超えて楽しむことができるお祭り文化は、準備や祭礼行事を通じて地域の文化に触れることができる数少ない機会。

令和2年・3年はコロナ禍での祭礼となり、規模縮小を余儀なくされたが、可能な範囲の行事を開催することを目標として実施した。

【令和2年】

疫病退散祈願神事を実施後、疫病を祓うとされる御獅子さまを台座に載せ、長い担ぎ棒を付けることで担ぎ手同士の距離を確保する等の新型コロナ対策を講じた上で巡行した。



【令和3年】

「前年よりも少しでも前進、今できることを精一杯やりきる。」という意気込みで臨み、伝統行事ではあるが、前例に縛られることなく、時代に合わせた柔軟な発想で企画し、実施した。

(1) 情報収集

全国で祭礼を実施した事例の、宮司さんや運営責任者と連絡から情報収集した。

(2) 新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインの策定

準備・お囃子練習・祭礼行事等全体を網羅するガイドラインを策定するとともに、手指消毒やフィジカルディスタンス確保等の従来対策に加え、寄付・お賽銭に非接触型決済(PayPay)を導入する等、新しい試みも行った。

(3) 山車巡行

祭礼に先立って、前日の7月4日に疫病退散祈願神事及び町内を清める巡行を、5日の宵祭りにおいて神賑行事としての巡行をそれぞれ実施する等、日程を分散した。



(4) チキリン親子体験教室



町内子供神輿については、2年連続での中止となり、子供向けのチキリン練習会も自粛された。

それにより、子供達が地域の文化に触れる機会が失われたため、体験・修得の機会を回復することを目的に、氏子九町内の小中学生とその親を対象に文化庁「子供たちのための伝統文化体験機会回復事業」の一つとして「チキリン親子体験教室」を開催した。

4 勉強会

持続可能な地域社会構築のため、SDG s についての勉強会を開催。基礎知識を学んだ上で、舞鶴町・長浜地区といったより身近な話題にSDG s の考え方を落とし込むことで、自分たちにできることが理解できた。また、当会の各種活動についても、SDG s に関連付けて考えるようになり、バックキャスティングで中長期的な将来ビジョンをイメージするといった意識改革に繋がった。



5 広報活動

(1) 広報誌の発行

新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、小規模での活動を余儀なくされ、職業柄参加を控える方や体調面に不安がある方等を考慮し、思うような行事ができなかった。これらを受け「自粛に沈む気持ちを少しでも払いたい。」「明るい話題を届けたい。」という思いから、まずは小さな活気を取り戻すべく広報誌を発行することとした。

令和3年4月から舞鶴町を中心に1回あたり440部を発行し、自治会の協力による「回覧」と、青年会の会員による「集合住宅のポスト投函」の二通りの方法を行っている。

これまで発行した記事の主な内容は以下のとおり。

① 山車特集

町内の魅力を伝えるフラッグシップとしての山車の特集コーナー

② 長濱祭

神輿や山車の巡行経路図を掲載、神社や祭の由来等の文化を紹介

③ 開催報告や開催行事の告知

SDG s の勉強会やチキリン体験教室の告知等



(2) ホームページや各種SNSによる情報発信

広報誌では紹介しきれない、またはタイムリーにお届けしたい情報については、ホームページやFacebook並びにInstagram等の各種SNSを活用しての情報発信を行っている。紙ベースの広報誌よりも多くの情報をより広範囲に発信できる外、若い世代の目にも触れやすく、活動を認知してもらいやすい。



6 オフィシャルキャラクターの作成

公募により、青年会オフィシャルキャラクター『まいっつるくん』を作成した。同キャラは、平成28年4月より活動を開始し、各種印刷物は勿論、缶バッジやオリジナル饅頭の刻印等にも使用して舞鶴町青年会をPRしている。令和2年度には、疫病退散を祈願するアマビエバージョンが登場した。



■ 町内会・その他の行事

町内盆踊りの開催協力（会場設営、かき氷、花火等）や大分七夕まつり「神社神輿」、国民文化祭「大分市やま揃え」等へ参加した。

特に工夫している点等

行事を定期的で開催することで、青年層が集まる機会を増やしたり、お祭り等の地域行事に関しては、主に次世代を担う子供たちに伝統文化への興味を持ってもらうため、木札やステッカー（御札）を配布するなどの工夫をした。

また、行事の事前事後の情報発信をしっかりと行い、住民の皆さんにも活動を認知していただけるようにした。

従前は単発の回覧による告知のみであったが、令和3年度より広報誌やホームページによる発信をスタートさせたことで、より分かりやすく活動情報をお届けできるようになった。令和3年度発行した広報誌の内容・工夫点は以下のとおり。

- ① 広報誌の愛称を募集するなど参加型とすることで興味を持ってもらえるようにした。
- ② QRコードを利用した応募フォームを設け、容易に応募（参加）できるようにした。
- ③ 祭等の行事において特集記事を発行した際は、HPサイトと連携して紙面とデジタルデバイスでの閲覧を可能とした。

活動の成果・今後の展望

青年組織を立ち上げ、活発に活動することで、祭等の地域行事がより活気溢れるものになり、町内会行事においても、世代間交流の機会が増加したように感じられる。

今後の展望は、以下のとおり。

1 広報活動

以前は、行事前にチラシを随時作成して周知を行っていたが、広報誌を定期的に発行することで行事以外の青年会活動を周知できるようになり、行事参加者の増加にもつながった。

今後は、祭の中心に次世代の担い手を据え、祭文化を継承していきたいと考えており、まずは興味を持ってもらうために、広報誌等を通じて様々な情報を発信していきたい。

2 組織拡大

活気ある組織を目指す上で、青年層の取り込みや、子供会を卒業した中高生の勧誘等、少しずつ組織を拡大するとともに、持続可能な組織を目指して、次世代の育成にも力を入れていきたい。

また、近隣町内の青年組織と交流・連携する等、地域横断的な交流を通じて、長浜校区並びに長濱神社氏子町内を活性化していきたい。

3 地域の伝統文化の継承

祭を始めとする地域の伝統文化には、時代を越えて積み重ねられた地域の文化が凝縮されており、唯一無二の各地固有の文化である。地域の歴史・伝統を肌で感じられる貴重なものなので、そういった素晴らしい文化に、今を生きる私たちの想いも載せて、次世代へ伝承していきたい。

優秀賞

テーマ：コミュニティの活性化

『にぎわいと活力あふれる 豊かなまちづくり』

(鶴崎地区 三佐校区)

三佐校区自治会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

三佐校区は大分市東部にあり乙津川と大野川の下流にあたる地域。

古くは竹田岡藩（三佐、海原）、臼杵藩（家島）の飛領地で瀬戸内海への玄関口として重要視された。昔から農業、漁業の産業が盛んで、今は新産業都市計画により大企業が進出し、沿岸は臨海工業地帯となっている。

また、転入者や企業に勤務する住民の比率が高くなっているため、校区住民の間の繋がりや構築などが課題であり、伝統行事や高齢者、若者、子供等多くの地域住民が参加する行事を通して『にぎわいと活力あふれる 豊かなまちづくり』を進めて行く必要がある。

取り組み内容

- 三佐のまつり（野坂神社や家島天満社、海原天満社の祭）
- 運動会・球技大会
- ふるさとまつり の開催の支援

また、三佐校区の独自の取組みとして、下記がある。

1 もちつき大会：毎年12月の第1土曜日に開催（令和3年度実施）

平成13年に始まり、毎年多くの地区住民が参加して開催している。

前日から自治会の役員が総出で臼、杵や会場づくりまで全ての準備を行い、当日は多くの三佐小学校の児童や鶴崎中学校の生徒「鶴翼会」が参加して、早朝から餅つきを始める。餅つき係、運搬係、丸める係など、全員がそれぞれ役割を受け持っており、会場は大賑わいとなる。



参加した子供たち一人ひとりに、大人たちが手を取って餅のつき方や、餅の丸め方、餡子の包み方を熱心に教える様子は、まるで本当の祖父母と孫のようで、とてもほほえましい。

※「鶴翼会」・・・学校・家庭・地域が一体となった子育ての推進を目的として設立された鶴崎中学校の生徒の組織

2 ふれあい歩こう会：年明けの2月第1週の土曜日に開催

平成18年から、地区住民のふれあいと体力作りを目的に開催。

事前にコースを下見して危険個所などの確認を行い、安全の徹底を図る。

鶴崎中学校の生徒「鶴翼会」を先頭に出発、道中は会話も弾み、和気あいあいとした雰囲気にもまれた行列ができる。途中で宝探し大会も行われ、帰着後は景品交換とおにぎり、豚汁を賞味して解散となる。



3 乙津川河川清掃：7回/年（5～11月）早朝に開催（令和3年度実施）

平成3年頃から行われている活動。

貴重な動植物が生息する乙津川河口干潟の環境を守りたいという地区住民の思いがきっかけとなり、「河川ボランティアグループ」が発足、河川清掃が始まった。

この活動をきっかけに下記の「干潟観察会」や「バードウォッチング」へと広がっていった。

ごみの量は5月には20袋/月ほどあるが、それ以降は月平均8袋ほどに減っていく。



4 乙津川干潟観察会：1回/年 夏時期に実施

平成25年から、河川ボランティアグループが小学生を対象に、乙津川干潟の環境学習を行っている。

地区住民にも身近にある貴重な自然環境を知ってもらうため、平成30年から、環境カウンセラーを講師に住民向けの干潟観察会が始まり、河口干潟の成り立ちや希少な動植物について学習する機会となっている。



5 乙津川バードウォッチング：1回／年 冬時期

平成29年から、野鳥の会にお願いして 乙津川河口干潟周辺に飛来する冬鳥の観察会を実施している。

コアジサシやカモ、ウミウなど約10種類ほどの野鳥が確認できている。



特に工夫している点等

1 子どもたちの参加が大変多く、行事の中で地域の方々との交流が各所で見られる。また、歩こう会では鶴崎中生徒の「鶴翼会」が先頭に立って参加者の皆さんをリードしていく役割を担っており、参加者の皆さんに気配りしている姿など、この取組を通して子どもたちの成長が期待される。

2 各行事終了後、反省会を行い役員の知恵を出し合いながら改善を図っている。特に役員の人員を増やし、各行事前後の広報活動に力を入れている。(令和3年度は『三佐ふるさと祭り』ののぼり旗を100枚作成)

3 各行事は校区を挙げて取り組んでいる。特に「もちつき大会」、「ふれあい歩こう会」などについては参加者が大変多く、準備が多岐にわたるため、自治会、多くの団体の代表などからなる『実行委員会』を設置して、全員で事前の準備と開催運営を行う。

活動の成果・今後の展望

前述の取組みを行ってきた効果もあり、最近地区外に出ている若者が事あるごとに帰ってきて行事に参加している姿が多く見られる。それと同時に、他地区から三佐地区へ移り住んだ人達の様々な行事への参加が多くなった。

また、進出企業が三佐の行事に積極的に参加し協力していただけるようになるなど、人々の融和が図られている。

1 もちつき大会による成果

もちつき大会を通して、伝統文化の継承はもとより、地域行事への参加と連帯の意識が育まれ、世代間交流が行われている。また、年々参加者が増えており、地区住民が開催を楽しみに待つ行事となっている。

2 ふれあい歩こう会による成果

この会を通して、地区住民同士がふれあい、支え合い、励まし合って完歩することにより、助け合いの心や連帯感が生まれており、毎回、声を掛け合って共に参加する人たちが増えている。

3 乙津川河川清掃活動等への参加者増加

希少な動植物が乙津川干潟に生息していることや、それを守るために清掃活動が大切であることなどを、公民館だよりで繰り返し広報したり、乙津川干潟観察会等を通して認識してもらったりすることで、貴重な自然環境を守ろうという地区住民の意識の向上につながり、清掃活動や観察会への参加者の増加がみられるようになった。

4 乙津川干潟の環境保護

乙津川の子清掃活動が、海洋プラスチックゴミ問題解決の一助になっている。

また、清掃を継続して実施することで、干潟に生息する希少な動植物が海洋ごみに覆われたり、流木などで傷つくことから守られている。その効果もあり、干潟に成育するハマボウの成育範囲が拡大しつつあり、美しい黄色い花が咲く時期をととても楽しみにしている。

さらに、姿を消した「ハクセンシオマネキ」の復活にも期待している。

今後も住民に呼びかけ大切な自然環境を守っていきたい。

コロナ禍前は、定番の各種行事に多くの校区民が参加し、世代間交流と親睦を深めており、役員と校区民が一丸となって行事を継続し、にぎわいと活力あふれる豊かなまちづくりを実践してきたが、コロナ禍で自粛期間が続き寂しい思いをした。

今後はにぎわいづくりと感染防止対策の両立を図り、ウィズコロナを念頭に新たな活動方法を模索しながら推進していくことが求められる。

優秀賞

テーマ：安全安心のまちづくり

自治会と警友会の連携による安全・安心のまちづくり ～地域内の連携・情報の共有を強化～

(南大分地区 豊府校区)

豊府校区自治会連合会・豊府校区警友会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

約2年にも及ぶコロナ禍において、地域における住民同士の信頼関係や他人への思いやりが希薄化してはいないかとの懸念から、地域内の連携強化の観点から自治会と警友会が本来地域で担うべき任務を再確認し、さらに充実させていくことが重要であると考えた。

そこで、豊府校区自治会連合会・豊府校区警友会（以下それぞれ「連合会」、「警友会」という。）は、私たちの豊府校区を犯罪・交通事故防止対策を中心とした住民が安心して生活できる「安全・安心な住みよいまち」をつくるという共通認識のもと、次の5項目を柱に活動していくこととした。

(活動の柱)

- 1 県内・他県の事件事故発生原因の分析と街頭活動
- 2 子どもの見守り活動の強化と真心のこもった高齢者の見守り活動、生き甲斐活動
- 3 新型コロナウイルス感染症対策
- 4 防災・減災対策
- 5 悪質な法令違反への強い指導、警察への通報

取り組み内容

●連合会（各自治会）の活動

①校区内自治会での情報共有

毎月校区定例会を開催し、行事等の確認を行うほか、県内・他県の事件事故発生原因を分析し情報共有を図ることで未然防止対策を協議している。

②南大分交番との連携強化

定例会時に交番だより（広報紙）の配布、必要に応じて交番所長を招き専門的見地からの

講話を聴くなどし、各自治会に注意喚起している。

③各自治会でのパトロール隊編成

校区8自治会のうち7自治会でパトロール隊を編成しており、役員が交代で見守り活動を実施している。

また、南太平寺自治会では防犯カメラを設置し、ごみの不法投棄対策を行うなど地域の安全・安心対策に努めている。



④新型コロナウイルス対策

市の発行のチラシや自治会単位で作成したチラシも市報配布に併せて回覧し、新型コロナウイルス感染防止のため新しい生活様式の徹底を図っている。

⑤防災・減災対策

豊府校区のうち花園・広瀬町は大分川に接しており、豪雨等による浸水対策が喫緊の課題であったため、国土交通省大分河川国道事務所大分出張所に対し府内大橋～広瀬橋間の河川内の樹木・竹等の伐採工事を依頼した。

また、多くの自治会で防災士を配置し、「頼るな、備えよ」をキーワードに防災マップの作成や災害時要支援者事業、防災訓練等に取り組むことで、地震や台風、豪雨等の災害時に備えている。

⑥ドローンの活用

広瀬町自治会の副会長がドローンを活用して平常時の地域の実態把握を行うなど、災害時に即応できる体制を整えている。

⑦真心を込めた高齢者の見守り活動、生き甲斐活動

羽屋自治委員が校区社協の会長を務めており、民生児童委員と連携し高齢者の見守り活動及び生き甲斐活動など各種福祉事業の陣頭指揮を執っている。

また、広瀬町では3年前から自治委員と民生児童委員が大分市の「在宅高齢者緊急通報サービス」に協力者として登録しており、健康面や防犯面において即応体制をとっている。

さらに敬老の日には、自治委員が対象者全員にお祝いを直接持参し安否確認を行うとともに、特殊詐欺・交通事故に遭わないよう留意事項を周知している。

⑧地域コミュニティの活性化

自治委員や各種団体の代表者で構成する「豊府の郷町づくり協議会」(会長：古国府東自治委員)において「豊府まつり」を30年以上にわたり実施しており「みんなで作ろう！豊府の郷・集う・ふれあう・つながる・豊府の絆」をスローガンとして校区役員が一丸となって地域を盛り上げている。また「スマイルボウリング大会」や「歴史探訪ウォーキン

グ大会」など地域愛の醸成や地域の歴史を学ぶイベント等も開催している。(令和2年、3年は中止)

●警友会の活動(豊府校区会員：7名)

警友会は当校区内の警察OBで組織されており、当会の重要な取組みの一つである地域安全活動について、昔取った杵柄で常に注意している。

また、連合会会長は警友会員でもあり、警察署や交番との情報共有等が迅速、綿密に行われている。

活動実績については、毎月定例会で報告するとともに、パトロールや日頃の活動の中で関係者に説明し、情報共有を図るなど連携強化を図っている。

また、他の警友会員に対し犯罪の予防策のみでなく、新型コロナウイルス対策、防災・減災対策、高齢者の見守り、生き甲斐活動などについてこれまで以上に関心を払い、地域安全活動に貢献するよう訴えている。

(主な活動内容)

- ・登下校時の見守り活動
- ・各町内会の朝の顔、昼の顔、夜の顔を把握するための不定期のパトロールやウォーキング、ジョギング、買い物等しながらの「ながらパトロール」で実態把握と指導及び関係機関への通報活動
- ・会員が「豊府校区青少年健全育成協議会」(以下「青少協」という。)の役員として同協議会メンバーとの連携活動、現場での指導活動
- ・会員が「学校評議会委員」として学校に対し子どもたちの安全面でのアドバイスの実施



特に工夫している点等

①自治会と警友会の連携による見守り活動

地域安全情報を共有することで効果的な見守り活動を行っている。

②参加者への積極的な声掛け

青少協主催のパトロールの実施に当たり事前に役員が住民に積極的な声掛けを行い、毎回多くの参加者を確保している。

③大分河川事務所への対応

河川工事を行っている大分河川事務所に対し、感謝状の謹呈や作業員に食料の差し入れなどを行った。

④ドローンの活用

ドローンを活用し、国から許可をもらっている区間（府内大橋～大分川河口）について平時の河川状況を上空から撮影することで現状把握を行っている。

⑤公然わいせつ事案等への対応

事案が発生した際、警友会員による現場付近の見回りなど厳重警戒を行った。

⑥車両等進入・駐車禁止区域における現場指導

堤防上のバイクの通行など交通違反行為についてドライバーに対し警友会員が厳しく指導している。

⑦自治会への説明（緊急時通報など）

防犯上緊急的な対応が必要な場合は、躊躇なく110番通報するようお願いしている。

⑧交通トラブルへの対応

朝のラッシュ時における交通トラブルについて指導し、事案の早期処理、解決に努める。

活動の成果・今後の展望

【活動の成果】

連合会と警友会による警戒活動の結果、不審者による声掛け事案の減少、下半身露出などの公然わいせつ事案が無くなるとともに、堤防上の通行違反行為などについても指導件数が減少している。

また、充実した避難訓練の実施により、住民の豪雨時の避難行動が迅速になったことが挙げられる。

こうした実績により豊府小学校から感謝の集いに招待され、“感謝の寄せ書き”をいただいたほか、保護者からは、子どもたちを対象とした不審者による声掛け事案やわいせつ事案の減少、登校時の「あいさつ指導」などが倫理教育となり、子どもたちの成長に大きく貢献している、との声をいただいている。

【今後の展望】

防災・減災、犯罪抑止、新型コロナウイルス対策を中心に今後も力をいれていくとともに、地域の様々な行事等において安全・安心に向けた啓発活動を繰り返し行うなど、現場主義をモットーに地域のために気力・体力が続く限り諸々の活動に取り組んでいく。

また「子ども見守り活動」や「災害時要配慮者対策」についても取り組んでいくが、学校や民生児童委員等との連携強化が不可欠であると考えている。

今後更なる地域の和、思いやり、信頼関係の醸成を図るため、連合会・警友会・交番・民生児童委員・青少協、交通安全協議会等が一体となり地域の総合力を効果的に発揮できる体制を構築していく。

優秀賞

テーマ：コミュニティの活性化

まち・人・こころ・地域をつなぐ回覧板 自治会だより（カラー版）

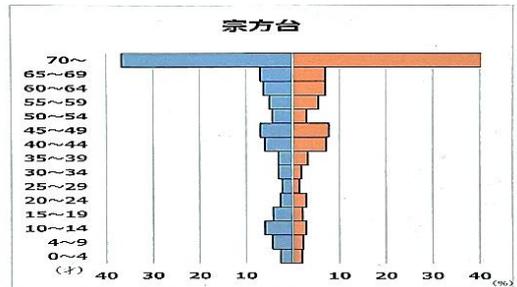
（植田地区 宗方校区）

宗方台自治会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

宗方台自治会は、70歳以上の高齢者が550名（全人口の約42%）、15歳未満の子どもが120名（約10%）で、宗方校区の自治会の中で最も少子高齢化が激しい自治会である。

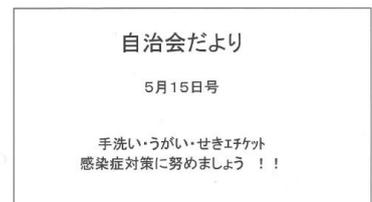
老人会や子ども会の解散によりそれぞれの活動が途絶え、また自治会活動が停滞していたことから、自治会活動や地域の行事などに参加しやすい環境づくりや地域に密着した広報が必要であると考え、これまで当自治会に無かった自治会だよりをカラー版で作成し、回覧することを始めた。



取り組み内容

自治会活動の「見える化」を図るために、役員を紹介に始まり、自治会における活動目標の設定、具体的な事業計画などについて、カラー写真をふんだんに取り入れながら活動報告に力を注いできた。

また、会長自ら歩き回って、地区内における様々な出来事などを情報収集、写真撮影をして掲載するほか、市や警察からのお知らせなども掲載して住民へ周知を行ってきた。



掲載内容は以下のとおり

- 1 出生祝い、入学祝いなど子育て支援
（※子ども会解散に伴い、自治会が継承）

（新）出生祝い5名（新）小学校入学祝い12名



2 安心安全なまちづくり

- ①団地内徐行等の看板設置
- ②交差点マークの線引き
- ③通学路となっている団地から中学校に降りる階段周辺の草刈り
- ④登下校見守り活動
- ⑤「あいさつOITA+1運動」の推進
- ⑥防災に関する啓発

団地内徐行運転などマナーアップを



南法面の階段付近

通学路の安全のため

6月7日マムシ出没
右側もきれいにして(要望)

⇒ 6月9日 階段右側 伐採と看板
安心して歩けます(感謝)



3 「日本一きれいなまちづくり」

- ①幟旗の設置
- ②ごみステーションの整備
- ③有価物回収事業開始
- ④公園、緑地の落ち葉拾い、畑への散布など
- ⑤ボランティア清掃

有価物回収ステーション 分別標識を設置



4 親子三世代事業の展開

- ①ラジオ体操会（東公園会場・西公園会場）実施
- ②ボランティア宗方台の発足
- ③宗方台ふれあいサロン開設
- ④小地域福祉ネットワーク
- ⑤ふれあい交流会&作品展
- ⑥公民館の整備～サークル活動支援
- ⑦孝養賞
- ⑧善行賞
- ⑨少年野球のサポート

ラジオ体操会・東公園愛護会で草刈り
5月14・15日(金・土)



- 5 総会、運営委員会、班長会など東・西・北ブロックの情報共有、社会福祉協議会への協力、宗方校区活動への積極的な参加

特に工夫している点等

市報を配布しても読まない、文字が小さく読みづらいという人が多いため、市報の内容を確認して住民に伝えておくべき大事な部分をピックアップし、自治会だよりに掲載している。

これまで市報に合わせて月2回発行し、令和3年7月からは市報同様月1回発行に変更したが、住民に伝えるべき内容がある時には月1回にこだわることなく、必要に応じて臨時号を発行し周知を行っている。

白黒ではなくカラー印刷にすることで「写真がとても見やすい」、「書いている内容が読みやすくよく分かる」と大変好評をいただいている。

『子どもの目線で』を合言葉に自治会活動を行っている。

活動の成果・今後の展望

当初と比べて、今では多くの住民が自治会だよりの回覧を楽しみにしている。自治会だよりの効果により、自治会活動や地域行事に対する関心が高まった結果、能動的に活動に関わってもらえるようになり、地域行事への参加者が年々増えている。

また、これまで白黒印刷だった植田公民館の公民館だよりをカラー印刷にするようアドバイスした結果、植田公民館においてもイベントや講座の参加者増加に繋がった等自治会の取り組みが他団体にも良い影響を与えていると感じている。

自治会活動に関しては、イベントより安全安心なまちづくりに重点を置くことでコミュニケーションを広め、深めることが出来ている。

これからの活動には、老・壮・青世代のリーダーの育成が喫緊の課題であるため、「かっせ隊」の充実強化を図っていく。

自治会だよりを通して、若い世代などこれまで関わりが少なかった人たちに対して、参加を促していき、将来の自治会活動を担っていく人材を育成していきたい。

奨励賞

テーマ：コミュニティの活性化

コロナ禍の中、「町内会便り」「えがお通信」の広報活動でまちづくり活性化

(大分中央地区 金池校区)

上野丘2丁目町内会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

「町内会便り」第1号は平成6年1月に創刊され、町内全戸に配布された。その当時の会長は「相互のコミュニケーションを密にして、風通しの良い、明るく楽しい町内会づくりのために発刊を計画した」と書いている。その後も毎年発刊し続け、ほぼ年1回のペースで発刊してきた。

そして、27年を経て令和3年1月には「町内会便り第30号」を発行するに至った。

特に令和2年、3年とコロナ禍において、人と人が会話をしたり会ったりできず、相互のコミュニティをとるのが難しい世の中であった。

町内や地域の各行事も中止となり、活動の様子を「町内会だより」に掲載するのが難しい状況となる中、長く続いた「町内会だより」の発行中止も考えたが、第1号創刊時の前述した主旨を踏まえ、できることをみんなで取り組んで行こうということになった。

会報「えがお通信」は令和2年4月より町内会長が市報の配布に併せて発行し、全戸へ回覧し地域の情報発信を行っている。住民の地域への関心が薄いため、月の行事、町内会からのお知らせ、町内の様子、地域の課題雑感、歳時記等を掲載し町内の活動に目を向け、誰もが参加する町内会を目指している。



「町内会便り」発刊に寄せて
町内会長



目次	
〇掲載1年「あけましておめでとう」	上野丘2丁目町内会会長 熊倉 隆雄……………P.1
〇掲載2年「あけましておめでとう」	大分県知事 田原 正孝……………P.2
〇2020年秋の町内会行事報告(第2号)	上野丘2丁目町内会会長 熊倉 隆雄……………P.3,4
〇掲載3年「あけましておめでとう」	熊倉 隆雄……………P.5,6
〇2020年秋の町内会行事報告(第3号)	上野丘2丁目町内会会長 熊倉 隆雄……………P.7,8
〇2020年秋の町内会行事報告(第4号)	上野丘2丁目町内会会長 熊倉 隆雄……………P.9,10
〇2020年秋の町内会行事報告(第5号)	上野丘2丁目町内会会長 熊倉 隆雄……………P.11,12
〇2020年秋の町内会行事報告(第6号)	上野丘2丁目町内会会長 熊倉 隆雄……………P.13,14
〇2020年秋の町内会行事報告(第7号)	上野丘2丁目町内会会長 熊倉 隆雄……………P.15,16

発行所：〒870-0101 大分県大分市上野丘2丁目町内会 編集：町内会役員、編集委員



取り組み内容

● 「町内会便り」平成6年1月から

平成6年に創刊した「町内会便り」は、令和3年1月に第30号を発刊する事ができた。

第1号は「松坂神社中秋祭」「校区体育祭」「バザー」の写真から始まり、各役員活動報告、町内会員からの寄稿、同好会紹介、町内活性化委員会の方の似顔絵等楽しい記事がたくさん掲載されている。その内容を年々引継ぎ、町内会の役員が中心になり編集等を行い発行に取り組み、町内のコミュニケーションを図っている。

令和2年、3年とコロナ禍の影響で盆踊り、松坂神社中秋祭、ふれあいバザー等の町内会行事が中止になり、従来通りの行事を行うことができなかつたため「町内会便り」の内容も従来通りの行事についての報告や感想などの記事が書けなくなつてしまった。

このような中でも、文字で町内の様子を伝え、人と人との交流を図ろうと、発行を諦めずに記事の収集や編集を行い発行に向けて取り組んできた。

紙面を少しでも充実させるために、まず記事の要望を聞くことから始めたところ、「ひと昔前の町内の様子を教えてほしい」「コロナが収束した後、公民館のサークル活動に参加したいので町内のサークルを紹介してほしい」等の要望が出された。出された要望をすべて叶えることはむずかしいが、できる限り要望に沿う形で執筆者を選び編集を行った。

● 「えがお通信」令和2年4月から

「えがお通信」の発行により、住民からは「地域の様子がよくわかる」「わかりやすく楽しい記事をいつもありがとうございます」「心がぬくもる記事が多いので気持ちが安らぎます」、役員からは「健康のために、この記事を載せてください」「ここは車がたくさん通り子どもが危険ですので注意をよびかけてください」「コロナ禍で高齢者は気持ちが落ち込んでいます、良い話を載せてください」等の声が寄せられ積極的にコミュニティが図られるようになった。



特に工夫している点等

● 「町内会便り」

「町内会便り」の執筆に当たっては、町内の会報（回覧）で呼びかけて執筆者を募ると共に、役員による編集会議をもち町内の方を推薦し、執筆のお願いにまわりました。

執筆者をお願いするにあたり、コロナ禍の中での町内の方々の情報を得るのが難しく執筆者がなかなか決まらないのが現状であった。

そこで、新聞の「読者の声」欄に投稿されている町内の方、地域の広報紙で紹介されている社会福祉や青少協の活動に取り組んでいる方、趣味や特技をもっている方などを紹介してもらい執筆をお願いした。



このように役員が身近な話題について常にアンテナを張り、執筆者の人選を行った。

コロナの影響により活動等が中断され、発行を断念しようとする意見もあったが、「町内会便り」の記念すべき第30号を発行することで、コロナ禍の中での町内の様子や住民の思いや考え方を伝え広め、町内を明るく元気にという願いから発行を続けることを決めた。

● 「えがお通信」

住民から寄せられた要望については、解決策を検討し「えがお通信」にて、写真や図で示してお知らせした。

特にカラスや猫がゴミステーションでゴミを散らす問題については、散らかった現場の写真を掲載し、ゴミの出し方について注意喚起を行った。

梅雨入り時には土砂災害のハザードマップを載せ、安全に避難し命を守る行動を呼びかけた。

コロナ対策としては、マスク熱中症の危険性を呼びかけたり、屋内での充実した過ごし方の例を紹介した。

また、高齢者が多いため字を大きくしたり、わかりやすい記事になるように心掛けた。



活動の成果・今後の展望

● 「町内会便り」

第1号から回を重ねるごとに、写真が入り、白黒印刷からカラー印刷へと変化し、紙面も充実してきて、町内の方からも記事に関しての感想を聞くようになった。

コロナ禍の中、生活の様子が変わり、人と接するのが困難な時に、紙面を通じて町内のコミュニケーション、町内の活性化を図ることができた。

住民から「町内会便りを読んで心が元気になった」「いつもこの町内会だよりを楽しみにしている」「1号から全部保管している、これからも続けてください」という声も聞かれ、励みになった。

今後もますます内容を充実させると共に、町内会の方々が町内会の活動に興味を持ち参加してもらえるように「町内会便り」の発行を続けたい。

● 「えがお通信」

「えがお通信」が回を重ねるごとに町内会活動に関心をもつ住人が増えてきたように思う。

令和2年、3年とコロナウィルス感染症の影響で町内会行事が中止になり、人と人とのコミュニケーションが図られない中、「えがお通信」を通して互いに心を通わせ、皆が仲良く楽しく暮らす地域づくりに貢献できた。

早くコロナが収束し、いろいろな行事が行われ「えがお通信」で住民を「えがお」にできることを願っている。

令和三年度

協働のまちづくり大賞 表彰式



問合せ先

大分市 市民部 市民協働推進課

電話：097-537-7251